

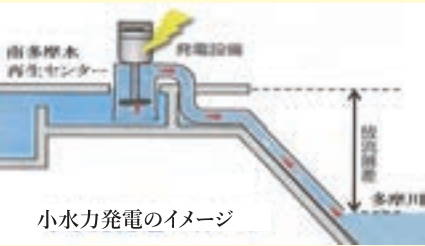
太陽光発電設備

パネル3,776 枚・1,000kW
(メガワット級)の太陽光発電
設備を設置し、センター内の
機械設備や照明などに、発電
した電気を使用しています。



小水力発電設備

センターと多摩川との放流
落差を活用した小水力発電設
備(発電能力 30kW)を設置
し、従来の未利用エネルギー
を活用しています。



稲城レーダー

「東京アメッシュ」で、降雨
状況をリアルタイムで監視する
雨量レーダーです。区部に設置
されたレーダーとともに東京都
全域をカバーしています。イン
ターネットに配信、スマート
フォン版の提供もしております
ので、ご利用ください。

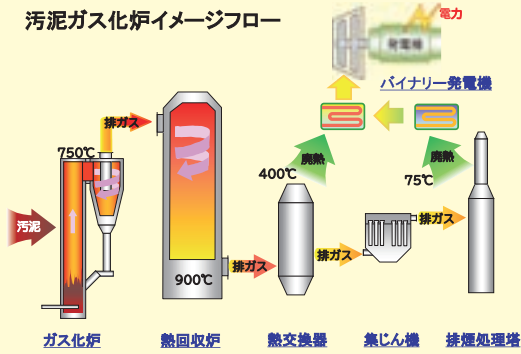


汚泥ガス化炉

下水汚泥を高温でガス化
燃焼し、その余剰熱をバイ
ナリー発電に利用します。
補助燃料の削減のほか、
既存の焼却炉に比べて温室
効果ガスを大幅に削減して
います。(汚泥焼却炉2号)



汚泥ガス化炉イメージフロー



南多摩スポーツ広場

水処理施設の上部空間は、稲城市が管理する「南多摩
スポーツ広場」として、グラウンドゴルフなどに利用さ
れています。
<利用申込み・お問い合わせ>
稲城市産業文化スポーツ部スポーツ推進課 TEL042-378-2111(代)



案内図



- 所在地 〒206-0801 東京都稲城市大丸1492
- 連絡先 ☎042-365-4302 (北多摩一号水再生センター)
- 交 通 JR南武線「南多摩」駅から徒歩20分

下水道局との関係をおわす
悪質業者にご注意を！

下水道局では、宅地内排水設備の修理や清掃な
どを業者に依頼することはありません。

国指定重要文化財
旧三河島汚水処分場唧筒(ポンプ)場施設



●東京アメッシュ
都内とその周辺地域で降
っている雨をレーダーと地上雨
量計で観測し、リアルタイムに
表示するシステムです。

●下水道アドベンチャー
下水道についての
クイズに正解して、
下水道マイスター
を目指そう。

●下水道局ホームページ
<https://www.gesui.metro.tokyo.lg.jp/>

地域で育む水環境

南多摩水再生センター



南多摩水再生センターは、多摩ニュータウンの建
設と歩調を合わせ作られました。処理区域は、多摩
市・稲城市の大部分、八王子市・町田市・日野市の一部
で、計画処理面積は5,901haです。
従来よりも水をきれいにできるステップA₂O法等
の高度処理方式を大部分に採り入れ、処理した水は
多摩川に放流しています。また、その一部を繊維ろ過
してセンター内の機械の洗浄や冷却などに使用して
います。
再生可能エネルギーの太陽光発電・小水力発電・バ
イナリー発電を最大限活用し、センター内の機械設
備を動かしています。

●処理区域



(令和7年4月現在)

- 運転開始
昭和46年 3 月
- 敷地面積
251,563㎡
- 処理能力
159,250㎥／日

●水処理施設

- 沈 砂 池 8 池
- 第一沈殿池 6 池
- 反 応 槽 7 槽
- 第二沈殿池 7 池

●汚泥処理施設

- 重力濃縮槽 2 槽
- 濃 縮 機 3 台
- 脱 水 機 6 台
- 焼 却 炉 2 基

●流入・放流水質

水再生センターからの放流水は、「都民の健康と安全を確保する環境に関す
る条例」の水質基準を十分に満たし、魚がすめる水質です。

単位：mg/L

項目	流入水		放流水	条例による放流 水の水質基準
	八王子	稲城・大栗		
B O D	190	180	2	25以下
C O D	110	100	7	—
全 窒 素	36.8	36.2	8.5	30以下
全 り ん	3.7	4.0	1.2	3以下

令和5年度 24時間試験平均値

※BOD、CODは、数値が高いほど水が汚れていることを示します。BODは、微生物が有
機物を分解するのに使う酸素量、CODは酸化剤で有機物を分解して消費する酸素量で測り
ます。放流水の水質基準は、河川はBOD、海域はCODにより定められています。全窒素、
全りんは、赤潮の発生などと深くかかわっています。



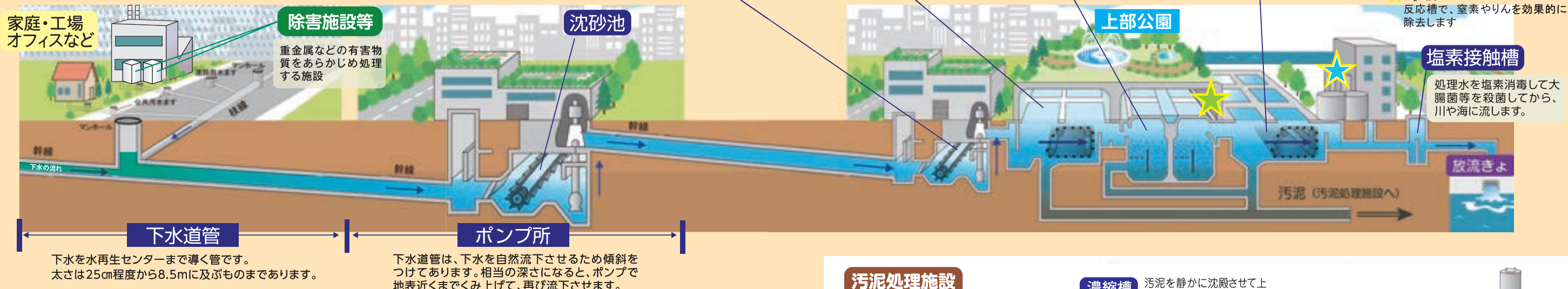


下水道のしくみ

下水道は、主に3つの施設でできています。

- 下水を集めて流す**下水道管**
- 下水道管が深くなりすぎないように途中で下水をくみ上げる**ポンプ所**
- 下水を処理してきれいな水によみがえらせる**水再生センター**

どの施設も正しく働くように日々点検、清掃、補修などを行っています。



下水道の役割

汚水の処理による生活環境の改善

家庭や工場から排出された汚水を処理して、快適な生活環境を確保します。

雨水の排除による浸水の防除

道路や宅地に降った雨水を速やかに排除して、浸水から街を守ります。

川や海などの水質保全

下水を処理し、きれいにした水を川や海に放流することにより、その水質を改善し、保全します。

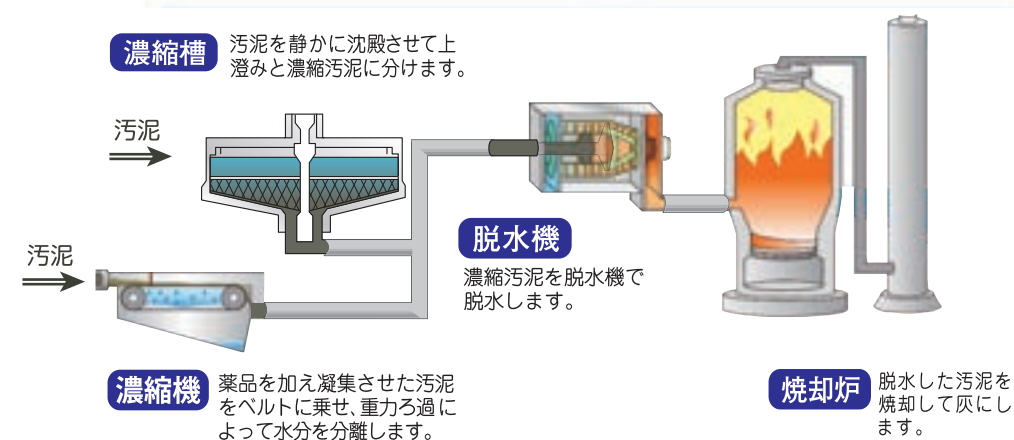
新たな役割

再生水や下水熱など下水道が持つ資源・エネルギーの有効利用や下水道施設の一部空間の利用などにより、良好な都市環境を創出するという新しい役割を担っています。

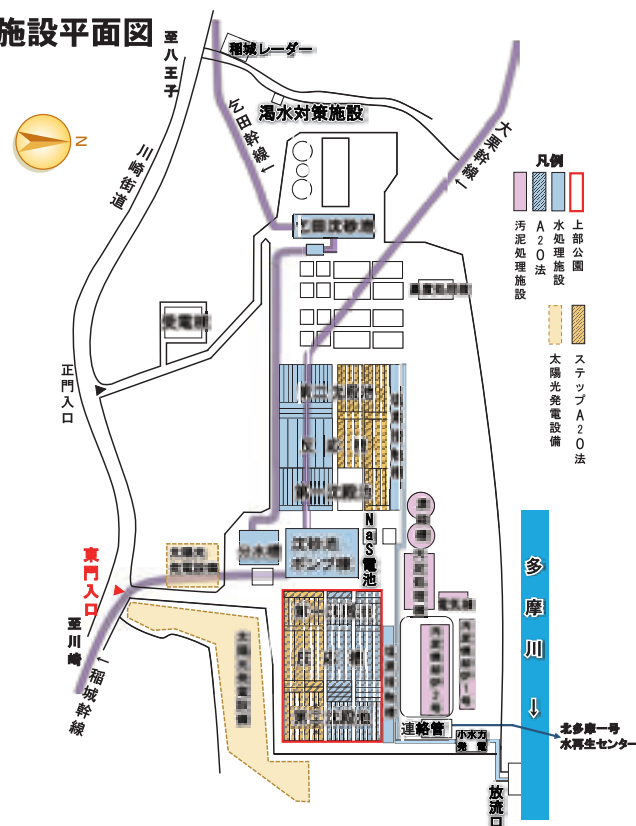
汚泥処理施設

汚泥の水分を取り除き、焼却しています。

※ 汚泥処理施設のない水再生センターは、汚泥処理施設のある水再生センターに汚泥を送って処理します。



施設平面図



南多摩水再生センターの特色

連絡管による施設機能の相互融通

多摩川の対岸にある北多摩一号水再生センターとの間を連絡管で結び、震災等により一方が被災した場合にも下水や汚泥を処理することができるバックアップ機能を確保しました。

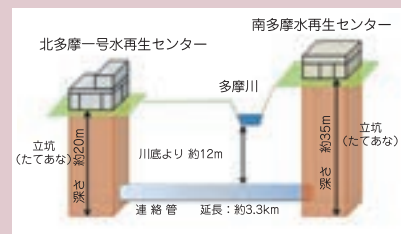
また、連絡管の相互融通機能を活用することで、施設の一部を停止して再構築や補修を効率的に行えます。

連絡管の概要

延長 3.3km

内径 3.5m

稼働 平成25年度



稲城ポンプ所

稲城幹線の最上流部に位置し、稲城市の矢野口押込地区の汚水の一部をくみ上げて、当水再生センターに送水する施設です。住宅地の中にあるため景観に配慮しています。

所在地 稲城市矢野口 1892 番地

高度処理施設 (ステップA₂O法)

今までの下水処理では取り除きにくい窒素やりんが原因で、東京湾では依然として富栄養化による赤潮が発生しています。このため、平成13年度からA₂O法やステップA₂O法という高度処理を行って、より多くの窒素やりんを除去しています。



稲城ポンプ所 外観

敷地面積 1,500㎡

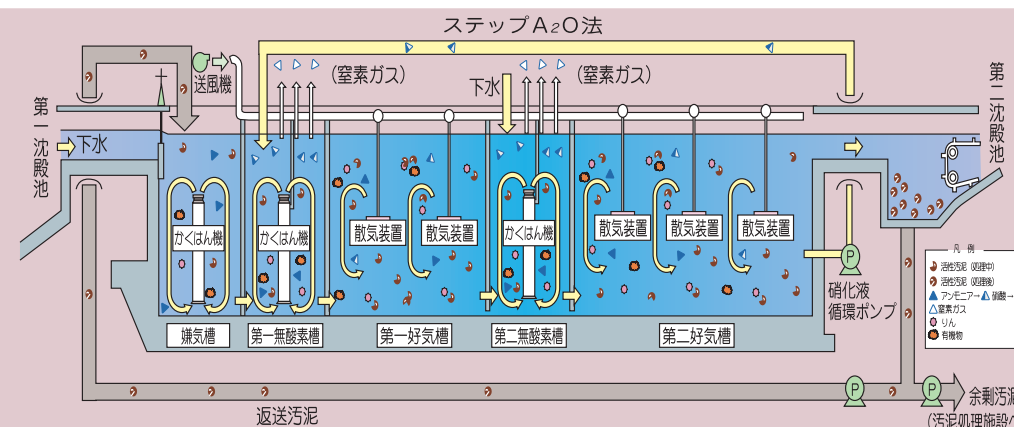
排水面積 約209ha

計画送水量 0.38m³/秒

沈砂池 2池

ポンプ設備 12m³/分 (1台)

ポンプ設備 6m³/分 (2台)



嫌気槽

下水と活性汚泥を、空気を吹き込まずに混ぜ合わせます。活性汚泥中の微生物は酸素がないので、体内に貯えたエネルギー物質を分解して呼吸をします。その際、りんを水中に放出します。

第一、第二無酸素槽

嫌気槽から出てきた水に、好気槽から水を戻します。微生物は窒素に結び付いている酸素を奪って呼吸します。酸素を取られた窒素はガスとなって放出されます。

第一、第二好気槽

空気を十分に吹き込むことで、有機物は微生物により分解され、窒素は酸素と結びつきます。また、嫌気槽で放出された量以上のりんが微生物に吸収されます。